

### 3. なし

・殺菌剤

FRAC コード	薬剤名	使用方法	使用時期	使用回数	備考
M1	(銅) I Cボルドー412	散布	-	-	
	I Cボルドー48Q	散布	収穫後～開花前	-	
M4+P7	アリエッティC水和剤	散布	収穫14日前まで	3回以内	
M3	アントラコール顆粒水和剤	散布	収穫45日前まで	4回以内	
3	アンビルフロアブル	散布	収穫7日前まで	3回以内	
3	インダーフロアブル	散布	収穫7日前まで	3回以内	
M4+M1	オキシラン水和剤	散布	収穫3日前まで	9回以内	
M1	(有機銅) オキシンドー水和剤80	散布	収穫3日前まで	9回以内	
	キノンドー水和剤80	散布	収穫3日前まで	9回以内	
	キノンドーフロアブル	散布	収穫3日前まで	9回以内	
	ドキリンフロアブル	散布	収穫3日前まで	9回以内	
7	カナメフロアブル	散布	収穫前日まで	3回以内	
M4+1	キャプレート水和剤	散布	収穫7日前まで	4回以内	ペノミルを含む
11	スクレアフロアブル	散布	収穫前日まで	3回以内	
3	スコア顆粒水和剤	散布	収穫14日前まで	3回以内	
11	ストロビードライフロアブル	散布	収穫前日まで	3回以内	
M3	(チウラム) チオノックフロアブル	散布	収穫30日前まで	5回以内	
	トレノックスフロアブル				
M9	デランフロアブル	散布	収穫60日前まで	4回以内	
1	(チオファネートメチル) トップジンM水和剤	散布	収穫前日まで	6回以内	チオファネートメチルを含む
	トップジンMペースト	塗布	剪定整枝時及び病患部削り取り直後	3回以内	
3	トリフミン水和剤	散布	収穫前日まで	3回以内	
11+7	ナリアWDG	散布	収穫前日まで	3回以内	
7	バシタック水和剤75	散布	収穫60日前まで	5回以内	
11	ファンタジスタ顆粒水和剤	散布	収穫前日まで	3回以内	
7	フルーツセイバー	散布	収穫前日まで	3回以内	
29	フロンサイドSC	散布	収穫30日前まで	1回	
3	ベランティーフロアブル	散布	収穫14日前まで	3回以内	
M7	(イミノクタジンアルベシル酸塩) バルコート水和剤	散布	収穫14日前まで	5回以内	
	バルコートフロアブル	散布	収穫14日前まで	5回以内	
1	ベンレート水和剤	散布	収穫前日まで	4回以内	ペノミルを含む
19	ポリオキシシNAL水和剤	散布	収穫7日前まで	5回以内	
52	ミギワ20フロアブル	散布	収穫前日まで	3回以内	
9	ユニックス顆粒水和剤	散布	収穫21日前まで	3回以内	
3	ラリー水和剤	散布	収穫14日前まで	3回以内	
2	ロブラール水和剤	散布	収穫14日前まで	5回以内	
M2	石灰硫黄合剤	散布	発芽前	-	
M1	硫酸銅	ボルドー液を調製して均一に散布する	-	-	

・殺虫剤

IRAC コード	薬剤名	使用方法	使用時期	使用回数	備考
3	アーデント水和剤	散布	収穫7日前まで	3回以内	
3	アグロスリン水和剤	散布	収穫前日まで	3回以内	
4	(イミダクロプリド) アドマイヤー水和剤	散布	収穫3日前まで (ただし、露地栽培 については発芽期 から開花期を除く)	2回以内	
	アドマイヤーフロアブル	散布	収穫3日前まで (ただし、露地栽培 については発芽期 から開花期を除く)	2回以内	
16	アブロード水和剤	散布	収穫30日前まで	2回以内	
4	(ジノテフラン) アルバリン顆粒水溶剤 スタークル顆粒水溶剤	散布	収穫前日まで	3回以内	
29	ウララDF	散布	収穫14日前まで	2回以内	
28	エクシレルSE	散布	収穫前日まで	3回以内	
1	オリオン水和剤40	散布	収穫3日前まで	2回以内	
15	カスケード乳剤	散布	収穫14日前まで	2回以内	
20	カネマイトフロアブル	散布	収穫前日まで	1回	
UN	クムラス	散布	-	-	
13	コテツフロアブル	散布	収穫前日まで	3回以内	
6	コロマイト水和剤	散布	収穫前日まで	1回	
-	コンフューザーN	ディスペンサーを対象 作物の枝に巻き付け、 または挟み込み設置す る。	成虫発生初期～終 期	-	果樹類
1	サイアノックス水和剤	散布	収穫7日前まで	3回以内	なし(有袋栽培)
		散布	収穫45日前まで	3回以内	なし(無袋栽培)
3	サイハロン水和剤	散布	収穫7日前まで	3回以内	
28	サムコルフロアブル10	散布	収穫前日まで	3回以内	
21	サンマイト水和剤	散布	収穫21日前まで	1回	
3	スカウトフロアブル	散布	収穫前日まで	5回以内	
25	スターマイトフロアブル	散布	収穫前日まで	1回	
UNM	(マシン油) ハーベストオイル	散布	発芽前	-	
1	スミチオン水和剤40	散布	収穫14日前まで	6回以内	なし(有袋栽培)
		散布	収穫21日前まで	6回以内	なし(無袋栽培)
1	ダイアジノン水和剤34	散布 散布	収穫14日前まで	6回以内	日本なし 西洋なし
23	ダニゲッターフロアブル	散布	収穫前日まで	1回	
25	ダニコングフロアブル	散布	収穫前日まで	1回	
25	ダニサラバフロアブル	散布	収穫前日まで	2回以内	
21	ダニトロンフロアブル	散布	収穫14日前まで	1回	
4	ダントツ水溶剤	散布	収穫前日まで	3回以内	
3	テルスター水和剤	散布	収穫前日まで	2回以内	
5	(スピネトラム) ディアナWDG	散布	収穫前日まで	2回以内	
	デリゲートWDG	散布	収穫前日まで	2回以内	
4	トランスフォームフロアブル	散布	収穫前日まで	3回以内	
11	バイオマックスDF	散布	収穫前日まで	-	
21	ハチハチフロアブル	散布	収穫30日前まで	1回	
4	バリアード顆粒水和剤	散布	収穫前日まで	3回以内	

IRAC コード	薬剤名	使用方法	使用時期	使用回数	備考
10	パロックフロアブル	散布	収穫 14 日前まで	2 回以内	
21	ピラニカ水和剤	散布	収穫 14 日前まで	1 回	
11	ファイブスター顆粒水和剤	散布	収穫前日まで	—	
28	(フルベンジアミド) フェニックス顆粒水和剤	散布	収穫前日まで	2 回以内	
	フェニックスフロアブル	散布	収穫前日まで	2 回以内	
4	ベストガード水溶剤	散布	収穫 14 日前まで	3 回以内	
-	ボクトウコンーH	ディスペンサーを対象 作物の枝に挟み込み、 または巻き付け設置す る。	成虫発生初期から 終期	—	果樹類
20	マイトコーネフロアブル	散布	収穫前日まで	1 回	
3	マブリックEW	散布	収穫 30 日前まで	2 回以内	
1	マイクロデナボン水和剤 8 5	散布	収穫 60 日前まで	3 回以内	日本なし
4	モスピラン顆粒水溶剤	散布	収穫前日まで	3 回以内	
28	ヨーバルフロアブル	散布	収穫前日まで	2 回以内	
3	ロディー水和剤	散布	収穫前日まで	2 回以内	
3	ロビンフッド	樹幹・樹枝の食入孔に ノズルを差し込み噴射	収穫前日まで	5 回以内	

注1) 使用回数はその薬剤の使用回数を記載しており、この他に薬剤に含まれる成分毎に、総使用回数が決められているので、農薬ラベル等を確認してそれを超えないように注意する。

注2) 薬剤抵抗性の出現を防ぐため、「FRACコード」や「IRACコード」を参考にしながら他系統剤とのローテーション使用を心掛ける（「薬剤抵抗性管理」参照）。

注3) 農薬登録上の作物名が標記の作物名と異なる場合、備考欄に記載した。

注4) ベノミルを含む剤を使用した場合には、チオファネートメチルを含む剤を使用しないこと。また、チオファネートメチルを含む剤を使用した場合には、ベノミルを含む剤を使用しないこと。ただし、塗布処理は除く。

品種や気象条件により収穫時期が異なるので、薬剤の使用時期（収穫前日数）に注意する。

(1)「二十世紀」・「南水」（この暦は有袋栽培を中心にしている。無袋栽培では農薬使用基準や薬害が異なる場合があるので注意する。）

農薬の使用回数は、前年の収穫後から本年の収穫までの期間の使用回数であるので注意する。

時期	散布薬剤と薬量(水 100ℓ 当り)及び散布量	発生病害虫名 (太字は防除) (重要病害虫)	注 意 事 項				
休眠期	黒斑病 : 被害枝、ぼけ芽は剪除し、焼却するか埋却する。 胴枯病 : 被害枝は切り取り、患部は削り取ってその痕にトップジンMペーストを塗布する。 ナシマダラメイガ (ナシオオシンクイ) : 被害芽 (ぼけ芽) を剪除する。 その他 : 粗皮削りを実施して越冬病害虫を除去する。						
発芽直前	石灰硫黄合剤 140  <table border="1" data-bbox="359 741 751 837"> <tr> <td>10a 当り</td> <td>動噴 3500</td> </tr> <tr> <td>散布量</td> <td>S S 3000</td> </tr> </table>	10a 当り	動噴 3500	散布量	S S 3000	黒 斑 病 黒 星 病 胴 枯 病 ハ ダ ニ 類 カ イ ガ ラ ム シ 類 ニ セ ナ シ サ ビ ダ ニ	1. 温暖無風な時を選んで散布する。 2. 石灰硫黄合剤を使用する場合は、石灰硫黄合剤 140 に対し、水 860 とする。 3. リンゴハダニの越冬卵やナシマルカイガラムシが多い場合には、マシン油乳剤 50 倍液を散布する。 4. 前年にニセナシサビダニの被害が多かった場合はマシン油乳剤 50 倍液又はクムラスの 300 倍液を散布してもよい。なお、クムラスは石灰硫黄合剤との混用はできない。 5. マシン油乳剤は、商品ごとに登録内容を確認すること。
10a 当り	動噴 3500						
散布量	S S 3000						
り ( 発芽う 1 脱週落間直後前 )	殺菌剤 ( I C ボルドー 4 8 Q 3.3kg)  殺虫剤 〔 ダイアジノン水和剤 100g サイアノックス水和剤 100g オリオン水和剤 4 0 100g 〕 のいずれか  <table border="1" data-bbox="359 1451 751 1547"> <tr> <td>10a 当り</td> <td>動噴 3500</td> </tr> <tr> <td>散布量</td> <td>S S 3000</td> </tr> </table>	10a 当り	動噴 3500	散布量	S S 3000	黒 斑 病 黒 星 病 ハ マ キ ム シ 類 ナ シ マ ダ ラ メ イ ガ ナ シ キ ジ ラ ミ	1. 散布時期が遅れたり、散布直後に降雨があると薬害を生ずることがある。 2. <b>オリオンは、蚕毒に特に注意する (特別指導事項参照)。</b> 3. 訪花昆虫を保護する場合には、B T 剤 (生菌) 又はカスケード乳剤 2,000 倍液のいずれかを散布する。 4. <b>B T 剤 (生菌)、カスケードは、蚕毒に特に注意する (特別指導事項参照)。</b>
10a 当り	動噴 3500						
散布量	S S 3000						

時期	散布薬剤と薬量(水 100ℓ 当り)及び散布量	発生病害虫名 (太字は防除) 重要病虫害	注 意 事 項				
4月 開花直前 (1〜2分咲)	<p>殺菌剤 (チウラムフロアブル (チオノック、トレノックス) 200mℓ)</p> <table border="1" data-bbox="357 499 748 595"> <tr> <td>10a 当り</td> <td>動噴 400〜450ℓ</td> </tr> <tr> <td>散布量</td> <td>S S 350ℓ</td> </tr> </table>	10a 当り	動噴 400〜450ℓ	散布量	S S 350ℓ	<p>黒 斑 病 赤 星 病 黒 星 病</p> <p>ナシマダラメイガ ハマキムシ類 ハダニ類 ナシキジラミ ケムシ類</p>	<p>1. 黒斑病初期感染の重要な時期である。 2. ハマキムシ類の多い場合は、BT剤(生菌) 2,000 倍液、フェニックス顆粒水和剤 4,000 倍液、サムコルフロアブル 5,000 倍液のいずれかを散布する。 3. BT剤(生菌)、サムコル、フェニックスは、蚕毒に特に注意する(特別指導事項参照)。</p>
10a 当り	動噴 400〜450ℓ						
散布量	S S 350ℓ						
4月 受粉直後	<p>殺菌剤 (ロブラール水和剤 66g)</p> <table border="1" data-bbox="357 909 748 1005"> <tr> <td>10a 当り</td> <td>動噴 400〜450ℓ</td> </tr> <tr> <td>散布量</td> <td>S S 350ℓ</td> </tr> </table>	10a 当り	動噴 400〜450ℓ	散布量	S S 350ℓ	<p>黒 斑 病 赤 星 病 黒 星 病</p>	<p>1. 黒星病は、低温で降雨が多いと発病しやすい。 2. 赤星病の発生園では、バシタック水和剤 1,000 倍液を散布する。</p>
10a 当り	動噴 400〜450ℓ						
散布量	S S 350ℓ						
4月 上旬	<p>コンフェューザーNは、この時期から5月中下旬までに、2割を周縁部に8割を園内に均一になるように、ディスペンサーを対象作物の枝に巻き付け、又は挟み込む。(200本/10a) 対象害虫：モモシクイガ、ナシヒメシクイ、チャノコカクモンハマキ、チャハマキ、リンゴコカクモンハマキ、リンゴモンハマキ(【注意事項】交信かく乱剤の設置時期・量参照)</p>						
4月 落花直後	<p>殺菌剤 (チウラムフロアブル (チオノック、トレノックス) 200mℓ スコア顆粒水和剤 50g ペランティーフロアブル 12.5mℓ) のいずれか</p> <p>殺虫剤 (別表-2-1による)</p> <table border="1" data-bbox="357 1641 748 1738"> <tr> <td>10a 当り</td> <td>動噴 400〜450ℓ</td> </tr> <tr> <td>散布量</td> <td>S S 350ℓ</td> </tr> </table>	10a 当り	動噴 400〜450ℓ	散布量	S S 350ℓ	<p>黒 斑 病 赤 星 病 黒 星 病</p> <p>ナシマダラメイガ ハマキムシ類 アブラムシ類 ケムシ類 ハダニ類 ナシキジラミ</p>	<p>1. 散布時期が遅れないよう注意する。 2. リンゴハダニの多い場合には殺ダニ剤を散布する(別表-3による)。</p>
10a 当り	動噴 400〜450ℓ						
散布量	S S 350ℓ						

時期	散布薬剤と薬量(水 100ℓ 当り)及び散布量	発生病害虫名 (太字は防除) (重要病害虫)	注 意 事 項				
5月	<p>前回より7日後</p> <p>殺菌剤 〔スコア顆粒水和剤 50g ベランティーフロアブル 12.5ml〕 のいずれか</p> <table border="1" data-bbox="359 526 751 622"> <tr> <td>10a 当り</td> <td>動噴 400～450ℓ</td> </tr> <tr> <td>散布量</td> <td>S S 350ℓ</td> </tr> </table>	10a 当り	動噴 400～450ℓ	散布量	S S 350ℓ	<p>黒 斑 病 赤 星 病 黒 星 病 カメムシ類 ハマキムシ類 ナシマダラメイガ ハダニ類</p>	<p>1. カメムシ類の発生園では、別表-2-1の殺虫剤を散布する。発生が多い場合は5～7日後にも散布する。この散布は幼果にさびが発生するおそれがあるので、露のある時はさける。</p>
	10a 当り	動噴 400～450ℓ					
散布量	S S 350ℓ						
<p>小袋かけ直前</p> <p>殺菌剤 〔チウラムフロアブル (チオノック、トレノックス) 200ml〕</p> <table border="1" data-bbox="359 813 751 909"> <tr> <td>10a 当り</td> <td>動噴 400～450ℓ</td> </tr> <tr> <td>散布量</td> <td>S S 350ℓ</td> </tr> </table>	10a 当り	動噴 400～450ℓ	散布量	S S 350ℓ	<p>黒 斑 病 黒 星 病 ミダレカクモンハマキ</p>	<p>1. ミダレカクモンハマキのふ化期は長期にわたるので、発生の多い場合はスピネトラム(ディアナWDG、デリゲートWDG)の10,000倍液を散布する。 2. スピネトラム(ディアナ、デリゲート)は蚕毒に特に注意する(特別指導事項参照)。</p>	
10a 当り	動噴 400～450ℓ						
散布量	S S 350ℓ						
小袋かけ「二十世紀」			<p>1. 落花後10～25日の間にかける。</p>				
5月	<p>下旬</p> <p>殺菌剤 (アントラコール顆粒水和剤 200g)</p> <p>殺虫剤 〔マイクロデナボン水和剤 100g スミチオン水和剤40 100g〕 のいずれか</p> <table border="1" data-bbox="359 1523 751 1619"> <tr> <td>10a 当り</td> <td>動噴 450～500ℓ</td> </tr> <tr> <td>散布量</td> <td>S S 350ℓ</td> </tr> </table>	10a 当り	動噴 450～500ℓ	散布量	S S 350ℓ	<p>黒 斑 病 黒 星 病 クワコナカイガラムシ カメムシ類 アブラムシ類 ナシヒメシンクイ</p>	<p>1. 標高600m以下の地帯では、クワコナカイガラムシ越冬卵のふ化がほぼ完了し、防除の重要な時期になるので樹全体に十分散布する。 2. クワコナカイガラムシのみ防除する場合は、アブロード水和剤1,000倍液を散布してもよい。 3. アブラムシ類に対しては、別表-2-1から薬剤を選んで散布する。ワタアブラムシに対しては、有機リン剤の効果が劣ることがあるので注意する(別表-2-1を参照)。 4. カメムシ類の多発園では殺虫剤(別表-2-1)をこの時期から2～3回散布する。</p>
10a 当り	動噴 450～500ℓ						
散布量	S S 350ℓ						

時期	散布薬剤と薬量(水 100ℓ 当り)及び散布量	発生病害虫名 (太字は防除) 重要病虫害	注 意 事 項						
6 月 上旬 中旬	<p>殺菌剤                      { ストロビードライフロアブル 50g }                      { ナリアWDG 50g }                      のいずれか</p> <p>殺虫剤                      ( モスピラン顆粒水溶剤 50g )</p> <table border="1" data-bbox="359 683 751 775"> <tr> <td>10a 当り</td> <td>動噴</td> <td>450～500ℓ</td> </tr> <tr> <td>散布量</td> <td>SS</td> <td>350～400ℓ</td> </tr> </table>	10a 当り	動噴	450～500ℓ	散布量	SS	350～400ℓ	<p>黒 斑 病                      黒 星 病                      輪 紋 病                      クワコナカイガラムシ                      ハマキムシ類                      アブラムシ類                      カメムシ類                      ニセナシサビダニ</p>	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 左記の殺菌剤にかえてアントラコール顆粒水和剤 500 倍液を散布してもよい。</li> <li>2. アントラコールはボルドー液と近接散布をすると薬害を発生するおそれがあるので注意する。</li> <li>3. ストロビーは、ぶどう及びおうとうに薬害を生じるおそれがあるので注意する(別表-1の注意事項参照)。</li> <li>4. ナリアはぶどう「ピオーネ」及び西洋なし「ル・レクチェ」に対して薬害のおそれがあるので注意する(別表-1の注意事項参照)。</li> <li>5. 標高 600m以上の地帯では、6月上旬にクワコナカイガラムシ越冬卵のふ化がほぼ完了し、防除の重要な時期となる。</li> <li>6. クワコナカイガラムシのみ防除する場合は、アプロード水和剤 1,000 倍液を散布してもよい。</li> <li>7. リンゴコカクモンハマキの多発園では、第 1 世代幼虫が小袋期間の末期に果実を加害するので、フェニックス顆粒水和剤 4,000 倍液かサムコルフロアブル 5,000 倍液を散布するとともに次回の防除の徹底をはかる。</li> <li>8. モスピランは、蚕毒に特に注意する(特別指導事項参照)。</li> <li>9. モスピランは一部の品種に対して薬害を生じる場合があるので注意する(注意事項のなしの薬害に対する注意参照)。</li> </ol>
10a 当り	動噴	450～500ℓ							
散布量	SS	350～400ℓ							
<p>大袋かけ (6月中～下旬)</p>			<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 小袋かけを行わない場合は、6月上中旬までに実施する。</li> <li>2. 黒斑病の発生園では、大袋かけ直前にポリオキシシ AL 水和剤 1,000 倍液を散布する。</li> <li>3. クワコナカイガラムシの発生園では、大袋かけの時期は 6 月 15 日～25 日頃が適期である。</li> </ol>						

時期	散布薬剤と薬量(水 100ℓ 当り)及び散布量	発生病害虫名 (太字は防除) (重要病害虫)	注 意 事 項				
6月 下旬	<p>殺菌剤 (アリエッティC水和剤 125g)</p> <p>殺虫剤 { ダイアジノン水和剤 100g サイアノックス水和剤 100g のいずれか</p> <p>殺ダニ剤 (別表-3による)</p> <table border="1" data-bbox="359 745 751 842"> <tr> <td>10a 当り</td> <td>動噴 500~550ℓ</td> </tr> <tr> <td>散布量</td> <td>S S 400~450ℓ</td> </tr> </table>	10a 当り	動噴 500~550ℓ	散布量	S S 400~450ℓ	<p>黒 斑 病 黒 星 病 輪 紋 病 カ メ ム シ 類 ハ ダ ニ 類 ハ マ キ ム シ 類 シ ン ク イ ム シ 類 ニ セ ナ シ サ ビ ダ ニ</p>	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. アリエッティCにかえてベルコート水和剤 1,000 倍液、ベルコートフロアブル 1,500 倍液、フロンサイドSCの 2,000 倍液のいずれかを散布してもよい。</li> <li>2. アリエッティCはぶどうに薬害を生じるおそれがあるので注意する(別表-1の注意事項参照)。</li> <li>3. フロンサイドは人によってかぶれることがあるので注意する。散布後の再入園でもかぶれが生じる。</li> <li>4. 梅雨期に枝の混んでいる園では、有機リン剤の散布によって、下葉が黄変落葉することがある。</li> <li>5. この時期からハダニ類の発生が増加するので、発生初期に防除する。</li> <li>6. 枝幹にも薬液が十分かかるよう散布する。</li> </ol>
10a 当り	動噴 500~550ℓ						
散布量	S S 400~450ℓ						
7月 上旬~中旬	<p>殺菌剤 { 有機銅水和剤80 (オキシンドー、キノンドー) 83g 有機銅フロアブル (キノンドー、ドキリン) 100ml のいずれか</p> <p>殺虫剤 { ジノテフラン顆粒水溶剤 (アルバリン、スタークル) 50g</p> <table border="1" data-bbox="359 1335 751 1431"> <tr> <td>10a 当り</td> <td>動噴 600~650ℓ</td> </tr> <tr> <td>散布量</td> <td>S S 400~450ℓ</td> </tr> </table>	10a 当り	動噴 600~650ℓ	散布量	S S 400~450ℓ	<p>黒 斑 病 輪 紋 病 う どん こ 病 ク ワ コ ナ カ イ ガ ラ ム シ シ ン ク イ ム シ 類 カ メ ム シ 類 ナ シ グ ン バ イ ナ シ ホ ソ ガ ハ ダ ニ 類</p>	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 「二十世紀」の有袋栽培では、この回と次回、左記の殺菌剤にかえて、4-8式ボルドー液を散布してもよい。</li> <li>2. 標高600m以下の地帯では、クワコナカイガラムシ第1世代幼虫が発生してくるので、防除の重要な時期である。</li> <li>3. この時期はナシヒメシンクイの防除上、最も大切な時期である。</li> <li>4. 果樹カメムシ多発年は、この時期に飛来が多い。カメムシが多い場合はこの時期から約7日毎に2~3回殺虫剤を散布する。</li> <li>5. ナシホソガ成虫の発生期になるので、多発園では7月中旬に別表-2-1の殺虫剤を散布する。</li> <li>6. ジノテフラン(アルバリン、スタークル)は、蚕毒に特に注意する(特別指導事項参照)。</li> </ol>
10a 当り	動噴 600~650ℓ						
散布量	S S 400~450ℓ						



時期	散布薬剤と薬量(水 100ℓ 当り)及び散布量	発生病害虫名 (太字は防除) (重要病虫害)	注 意 事 項				
7 月 下旬	<p>殺菌剤 〔有機銅水和剤 80 (オキシンドー、キノンドー) 83g 有機銅フロアブル (キノンドー、ドキリン) 100ml〕 のいずれか</p> <p>殺虫剤 〔スミチオン水和剤 40 100g ダントツ水溶剤 50g〕 のいずれか</p> <p>殺ダニ剤 (別表-3による)</p> <table border="1" data-bbox="359 745 751 842"> <tr> <td>10a 当り</td> <td>動噴 600~650ℓ</td> </tr> <tr> <td>散布量</td> <td>S S 400~450ℓ</td> </tr> </table>	10a 当り	動噴 600~650ℓ	散布量	S S 400~450ℓ	<p>黒 斑 病 カメムシ類 シンクイムシ類 ハダニ類 クワコナカイガラムシ ハマキムシ類</p>	<ol style="list-style-type: none"> <li>ハダニ類はこの時期に高温乾燥傾向になると多発しやすくなるので、梅雨明け時期に注意して殺ダニ剤を散布する。</li> <li>ハダニ類が多発すると葉の黒変、早期落葉の原因となるため、発生初期に徹底した防除をする。殺ダニ剤はローテーションを考慮して選択する。</li> <li>左記の殺虫剤にかえてバリアード顆粒水和剤、モスピラン顆粒水溶剤の 2,000 倍液のいずれかを散布してもよい。</li> <li>ダントツ、バリアード、モスピランは、蚕毒に特に注意する(特別指導事項参照)。</li> </ol>
10a 当り	動噴 600~650ℓ						
散布量	S S 400~450ℓ						
8 月 上旬	<p>殺菌剤 〔ベルコート水和剤 100g ベルコートフロアブル 66ml〕 のいずれか</p> <p>殺虫剤 (モスピラン顆粒水溶剤 50g)</p> <table border="1" data-bbox="359 1182 751 1279"> <tr> <td>10a 当り</td> <td>動噴 600~650ℓ</td> </tr> <tr> <td>散布量</td> <td>S S 350~400ℓ</td> </tr> </table>	10a 当り	動噴 600~650ℓ	散布量	S S 350~400ℓ	<p>黒 斑 病 うどんこ病 クワコナカイガラムシ シンクイムシ類 ナシグンバイ ハダニ類 カメムシ類</p>	<ol style="list-style-type: none"> <li>左記の殺菌剤にかえて、ストロビードライフロアブル 2,000 倍液を散布してもよい。</li> <li>ストロビーは、ぶどう及びおうとうに葉害を生ずるおそれがあるので注意する(別表-1の注意事項参照)。</li> <li>標高 600m以上の地帯では、クワコナカイガラムシ第 1 世代幼虫が発生し、この世代の産卵した卵で越冬するので、徹底した防除をする。</li> <li>カメムシ類の多発園では今回散布 5~7 日後に別表-2-1の殺虫剤を散布してもよい。</li> <li>モスピランは、蚕毒に特に注意する(特別指導事項参照)。</li> </ol>
10a 当り	動噴 600~650ℓ						
散布量	S S 350~400ℓ						

時期	散布薬剤と薬量(水 100ℓ 当り)及び散布量	発生病害虫名 (太字は防除) (重要病虫害)	注 意 事 項				
8 月 中 旬 下 旬	<p>殺菌剤</p> <p>〔ベルコート水和剤 100g ベルコートフロアブル 66ml のいずれか〕</p> <p>殺虫剤 (スミチオン水和剤 40 100g)</p> <table border="1" data-bbox="359 616 750 712"> <tr> <td>10a 当り</td> <td>動噴 600～650ℓ</td> </tr> <tr> <td>散布量</td> <td>S S 350～400ℓ</td> </tr> </table>	10a 当り	動噴 600～650ℓ	散布量	S S 350～400ℓ	<p>黒 斑 病 黒 星 病 カ メ ム シ 類 シ ン ク イ ム シ 類 ハ マ キ ム シ 類 ハ ダ ニ 類</p>	<ol style="list-style-type: none"> <li>ハマキムシ類の多い場合には、スミチオンにかえて別表-2-1の殺虫剤を散布する。</li> <li>カメムシ類の多発園では今回の散布5～7日後に別表-2-1の殺虫剤を散布する。</li> <li>ハダニ類の多い場合には殺ダニ剤を散布する。</li> <li>「南水」でシンクイムシ類の多い場合は、アグロスリン水和剤、ロディー水和剤の1,000倍液、スカウトフロアブル、バリアード顆粒水和剤の2,000倍液、エクシレルSE、ヨーバルフロアブルの5,000倍液のいずれかを散布してもよい。</li> <li>アグロスリン、ロディー、スカウトは蚕毒・魚毒に、エクシレル、バリアード、ヨーバルは蚕毒に特に注意する(特別指導事項参照)。</li> </ol>
10a 当り	動噴 600～650ℓ						
散布量	S S 350～400ℓ						
9 月 上 旬	<p>殺菌剤 (オキシラン水和剤 200g)</p> <table border="1" data-bbox="359 1115 750 1211"> <tr> <td>10a 当り</td> <td>動噴 600～650ℓ</td> </tr> <tr> <td>散布量</td> <td>S S 350～400ℓ</td> </tr> </table>	10a 当り	動噴 600～650ℓ	散布量	S S 350～400ℓ	<p>黒 斑 病 黒 星 病 シ ン ク イ ム シ 類 吸 蛾 類</p>	<ol style="list-style-type: none"> <li>オキシラン水和剤にかえて有機銅フロアブル(キノンドー、ドキリン)1,000倍液又は有機銅水和剤80(オキシンドー、キノンドー)1,200倍液を散布してもよい。</li> <li>「南水」園で黒斑病の発生が多い場合は、9月中旬にも有機銅フロアブル(キノンドー、ドキリン)の1,000倍液を散布する。有機銅は、魚毒に注意する。</li> <li>黒星病の多い園では、収穫直後に有機銅フロアブル(キノンドー、ドキリン)の1,000倍液又は有機銅水和剤80(オキシンドー、キノンドー)の1,200倍液を散布する。</li> <li>「南水」でシンクイムシ類の多い場合は、アグロスリン水和剤、ロディー水和剤の1,000倍液、スカウトフロアブル、ジノテフラン(アルバリン、スタークル)顆粒水溶剤、バリアード顆粒水和剤の2,000倍液のいずれかを散布する。</li> <li>アグロスリン、ロディー、スカウトは蚕毒・魚毒に、ジノテフラン(アルバリン、スタークル)、バリアードは蚕毒に特に注意する(特別指導事項参照)。</li> </ol>
10a 当り	動噴 600～650ℓ						
散布量	S S 350～400ℓ						
<p>農薬の使用回数の注意 使用回数は、収穫後から翌年の収穫までの期間の使用回数であるので注意する。</p>							

(2)「幸水」・「豊水」

農薬の使用回数は、前年の収穫後から本年の収穫までの期間の使用回数であるので注意する。

時期	散布薬剤と薬量(水 100ℓ 当り)及び散布量	発生病害虫名 (太字は防除) (重要病害虫)	注 意 事 項				
休眠期	黒星病 : 発生地帯では落葉を焼却するか埋却する。 胴枯病 : 被害枝は切り取り、患部は削り取ってその痕にトップジンMペーストを塗布する。 本病原菌は心腐れ症の原因となる。 ナシマダラメイガ(ナシオオシンクイ) : 被害芽(ぼけ芽)を剪除する。 その他 : 粗皮削りを実施して越冬病害虫を除去する。						
発芽直前	石灰硫黄合剤 140  <table border="1" data-bbox="359 763 751 857"> <tr> <td>10a 当り</td> <td>動噴 350ℓ</td> </tr> <tr> <td>散布量</td> <td>S S 300ℓ</td> </tr> </table>	10a 当り	動噴 350ℓ	散布量	S S 300ℓ	黒 星 病 胴 枯 病 カイガラムシ類 ハダニ類 ニセナシサビダニ	1. 温暖無風な時を選んで散布する。 2. 石灰硫黄合剤を使用する場合は、石灰硫黄合剤 140 に対し、水 86ℓ とする。 3. リンゴハダニの越冬卵やナシマルカイガラムシが多い場合には、マシン油乳剤 50 倍液を散布する。 4. 前年にニセナシサビダニの被害が多かった場合はマシン油乳剤 50 倍液又はクムラスの 300 倍液を散布してもよい。なお、クムラスは石灰硫黄合剤との混用はできない。 5. マシン油乳剤は、商品ごとに登録内容を確認すること。
10a 当り	動噴 350ℓ						
散布量	S S 300ℓ						
りんぼう脱落直前 (発芽1週間後)	殺菌剤 (ICボルドー48Q) 3.3kg)  殺虫剤 (ダイアジノン水和剤 100g サイアノックス水和剤 100g オリオン水和剤40 100g のいずれか)  <table border="1" data-bbox="359 1442 751 1536"> <tr> <td>10a 当り</td> <td>動噴 350ℓ</td> </tr> <tr> <td>散布量</td> <td>S S 300ℓ</td> </tr> </table>	10a 当り	動噴 350ℓ	散布量	S S 300ℓ	黒 星 病 胴 枯 病 ハマキムシ類 ナシマダラメイガ ナシキジラミ	1. 散布時期が遅れたり、散布直後に降雨があると薬害を生ずることがある。 2. オリオンは蚕毒に特に注意する(特別指導事項参照)。 3. 訪花昆虫を保護する場合は、殺虫剤をBT(生菌)又はカスケード乳剤 2,000 倍液のいずれかにかえる。 4. BT剤、カスケードは蚕毒に特に注意する(特別指導事項参照)。
10a 当り	動噴 350ℓ						
散布量	S S 300ℓ						
4月 開花直前 (1〜2分咲)	殺菌剤 (DMI剤(別表-1による) 25mℓ ミギワ20フロアブル のいずれか)  <table border="1" data-bbox="359 1771 751 1865"> <tr> <td>10a 当り</td> <td>動噴 350ℓ</td> </tr> <tr> <td>散布量</td> <td>S S 300ℓ</td> </tr> </table>	10a 当り	動噴 350ℓ	散布量	S S 300ℓ	黒 星 病 赤 星 病 ハマキムシ類 ナシマダラメイガ ケムシ類 ナシキジラミ	1. 開花直前〜落花直後は、黒星病防除の重要時期である。散布むらのないよう丁寧に散布する。 2. ハマキムシ類の多い場合は、BT剤(生菌) 2,000 倍液、サムコルフロアブル 5,000 倍液のいずれかを散布する。 3. BT剤、サムコルは蚕毒に特に注意する(特別指導事項参照)。
10a 当り	動噴 350ℓ						
散布量	S S 300ℓ						

時期	散布薬剤と薬量(水 100ℓ 当り)及び散布量	発生病害虫名 (太字は防除) (重要病害虫)	注 意 事 項				
5月	<p>上旬</p> <p>コンフューザーNは、この時期から5月中下旬までに、2割を周縁部に8割を園内に均一になるように、ディスペンサーを対象作物の枝に巻き付け、又は挟み込む(200本/10a)。 対象害虫：モモシクイガ、ナシヒメシクイ、チャノコカクモンハマキ、チャハマキ、リンゴコカクモンハマキ、リンゴモンハマキ (【注意事項】 交信かく乱剤の設置時期・量参照)</p>						
	<p>落花直後</p> <p>殺菌剤 (DMI剤(別表-1による) カナメフロアブル 12.5ml) のいずれか</p> <p>殺虫剤 (別表-2-1による)</p> <table border="1" data-bbox="359 779 751 875"> <tr> <td>10a 当り</td> <td>動噴 350~400ℓ</td> </tr> <tr> <td>散布量</td> <td>SS 350ℓ</td> </tr> </table>	10a 当り	動噴 350~400ℓ	散布量	SS 350ℓ	<p>黒星病 赤星病 心腐れ症(幸水) ナシマダラメイガ ハマキムシ類 アブラムシ類 ケムシ類 ハダニ類 ナシキジラミ</p>	<ol style="list-style-type: none"> <li>心腐れ症は、胴枯病菌の感染による果実腐敗である。</li> <li>左記の殺菌剤にかえてフルーツセイバーの2,000倍液を散布してもよい。</li> <li>リンゴハダニが多い場合には殺ダニ剤を散布する(別表-3による)。</li> </ol>
10a 当り	動噴 350~400ℓ						
散布量	SS 350ℓ						
前回より10日後	<p>殺菌剤 (チウラムフロアブル (チオノック、トレノックス) 200ml) デランフロアブル 100ml) のいずれか</p> <table border="1" data-bbox="359 1171 751 1267"> <tr> <td>10a 当り</td> <td>動噴 400~450ℓ</td> </tr> <tr> <td>散布量</td> <td>SS 350ℓ</td> </tr> </table>	10a 当り	動噴 400~450ℓ	散布量	SS 350ℓ	<p>黒星病 赤星病 心腐れ症(幸水) カメムシ類 ハマキムシ類 ハダニ類 クワコナカイガラムシ</p>	<ol style="list-style-type: none"> <li>黒星病の多発が予想される場合には、ユニックス顆粒水和剤の2,000倍液、スクレアフロアブル、ファンタジスタ顆粒水和剤の3,000倍液のいずれかを散布する。</li> <li>デランは浸達性展着剤(アプローチBIなど)を加用して使用すると薬害を生じるので加用しない。</li> <li>ユニックスはおうとうに対して薬害を生じるおそれがあるので、かからないようにする。</li> <li>ミダレカクモンハマキのふ化期は長期にわたるので、発生の多い場合はスピネトラム(ディアナ、デリゲート)の10,000倍液を散布する。</li> <li>スピネトラム(ディアナ、デリゲート)は蚕毒に特に注意する(特別指導事項参照)。</li> <li>カメムシ類の発生園では別表-2-1の殺虫剤を散布する。発生が多い場合は5~7日後にも散布する。</li> </ol>
10a 当り	動噴 400~450ℓ						
散布量	SS 350ℓ						

時期	散布薬剤と薬量(水 100ℓ 当り) 及び散布量	発生病害虫名 (太字は防除) 重要病虫害	注 意 事 項				
5 月 下 旬	<p>殺 菌 剤</p> <p>〔 チウラムフロアブル 200ml (チオノック、トレノックス) 200ml デランフロアブル 100ml のいずれか 100ml 〕</p> <p>殺 虫 剤</p> <p>〔 ミクロデナボン水和剤 100g スミチオン水和剤 40 100g のいずれか 100g 〕</p> <table border="1" data-bbox="359 712 751 808"> <tr> <td>10a 当り</td> <td>動噴 400～450ℓ</td> </tr> <tr> <td>散布量</td> <td>S S 350ℓ</td> </tr> </table>	10a 当り	動噴 400～450ℓ	散布量	S S 350ℓ	<p>黒 星 病 心腐れ症 (幸水) <b>アブラムシ類</b> <b>カメムシ類</b> クワコナカイガラムシ ナシグンバイ シンクイムシ類 ヒメボクトウ</p>	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 標高 600m以下の地帯では、クワコナカイガラムシ越冬卵のふ化がほぼ完了し、防除の重要な時期である。</li> <li>2. クワコナカイガラムシのみ防除する場合は、アプロード水和剤 1,000 倍液を散布してもよい。</li> <li>3. アブラムシ類に対しては、別表 2-1 から薬剤を選んで散布する。</li> <li>4. ワタアブラムシに対して有機リン剤は効果が劣ることがあるので注意する (別表 2-1 を参照)。</li> <li>5. ヒメボクトウ発生園では、6 月上旬までにボクトウコンーHを設置する (100 本/10a)。また、この時期以降虫糞の排出が確認された場合にロビンフッドを処理する。ロビンフッドの使用回数は 5 回までなので注意する (使用方法はりんご総括注意の項参照)。</li> <li>6. <b>ロビンフッドは蚕毒に特に注意する (特別指導事項参照)。</b></li> </ol>
10a 当り	動噴 400～450ℓ						
散布量	S S 350ℓ						
6 月 上 旬 中 旬	<p>殺 菌 剤</p> <p>〔 ベルクート水和剤 100g ベルクートフロアブル 66g のいずれか 66g 〕</p> <p>殺 虫 剤</p> <p>(モスピラン顆粒水溶剤 50 g) 50 g)</p> <table border="1" data-bbox="359 1429 751 1525"> <tr> <td>10a 当り</td> <td>動噴 400～450ℓ</td> </tr> <tr> <td>散布量</td> <td>S S 350ℓ</td> </tr> </table>	10a 当り	動噴 400～450ℓ	散布量	S S 350ℓ	<p><b>輪 紋 病</b> <b>黒 星 病</b> 心腐れ症 (幸水) <b>ハマキムシ類</b> シンクイムシ類 クワコナカイガラムシ アブラムシ類 カメムシ類 ヒメボクトウ ニセナシサビダニ</p>	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 「幸水」では 6 月中旬～7 月上旬が黒星病の果実感染を防ぐ重要な時期である。</li> <li>2. リンゴコカクモンハマキの第 1 世代幼虫が発生してくる。多発園ではフェニックス顆粒水和剤 4,000 倍液かサムコルフロアブル 5,000 倍液を散布するとともに次回の防除を徹底する。</li> <li>3. 標高 600m以上の地帯では 6 月上旬にクワコナカイガラムシの越冬卵のふ化がほぼ完了し、防除の重要な時期である。</li> <li>4. クワコナカイガラムシのみ防除する場合は、アプロード水和剤 1,000 倍液を散布してもよい。</li> <li>5. <b>モスピランは、蚕毒に特に注意する (特別指導事項参照)。</b></li> <li>6. モスピランは一部の品種に対して薬害を生じる場合があるので注意する (注意事項のなしの薬害に対する注意参照)。</li> </ol>
10a 当り	動噴 400～450ℓ						
散布量	S S 350ℓ						

時期	散布薬剤と薬量(水 100ℓ 当り)及び散布量	発生病害虫名 (太字は防除) (重要病虫害)	注 意 事 項				
6月 下旬	<p>殺菌剤 〔ストロビードライフロアブル 50g〕 〔ナリアWDG 50g〕 のいずれか 殺虫剤 (サイアノックス水和剤 100g) 殺ダニ剤 (別表-3による)</p> <table border="1" data-bbox="359 600 751 696"> <tr> <td>10a 当り</td> <td>動噴 400~450ℓ</td> </tr> <tr> <td>散布量</td> <td>S S 350ℓ</td> </tr> </table>	10a 当り	動噴 400~450ℓ	散布量	S S 350ℓ	<p>輪黒病 紋星病 胴枯病 心腐れ症(幸水) ハダニ類 カメムシ類 シンクイムシ類 ハマキムシ類 ナシマダラメイガ ヒメボクトウ ニセナシサビダニ</p>	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. ストロビーはおとう及びぶどうに対して薬害を生じる場合があるので注意する(別表-1の注意事項参照)。</li> <li>2. ナリアはぶどう「ピオーネ」及び西洋なし「ル・レクチェ」に薬害を生ずる場合があるので注意する(別表-1の注意事項参照)。</li> <li>3. 梅雨期に枝の混んでいる園では、有機リン剤の散布によって、下葉が黄変落葉することがある。</li> <li>4. この時期からハダニ類の発生が増加するので、発生初期に防除する。</li> </ol>
10a 当り	動噴 400~450ℓ						
散布量	S S 350ℓ						
7月 中旬	<p>殺菌剤 〔キャプレート水和剤 166g〕 〔ベルコート水和剤 100g〕 〔ベルコートフロアブル 66ml〕 のいずれか 殺虫剤 〔サイアノックス水和剤 100g〕 〔ダイアジノン水和剤 100g〕 〔ジノテフラン顆粒水溶剤 (アルパリン、スタークル) 50g〕 のいずれか</p> <table border="1" data-bbox="359 1189 751 1285"> <tr> <td>10a 当り</td> <td>動噴 450~500ℓ</td> </tr> <tr> <td>散布量</td> <td>S S 400ℓ</td> </tr> </table>	10a 当り	動噴 450~500ℓ	散布量	S S 400ℓ	<p>輪黒病 紋星病 胴枯病 うどんこ病 シンクイムシ類 カメムシ類 ハダニ類 ナシマダラメイガ ヒメボクトウ</p>	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 果樹カメムシは、この時期に飛来が多い。カメムシが多い場合は、この時期から約7日毎に2~3回殺虫剤を散布する。</li> <li>2. カメムシ類を防除対象としない場合は、フェニックス顆粒水和剤、フェニックスフロアブルの4,000倍液、エクシレルSE、ヨーバルフロアブルの5,000倍液のいずれかを散布してもよい。</li> <li>3. エクシレル、ジノテフラン(アルパリン、スタークル)、フェニックス、ヨーバルは、蚕毒に特に注意する(特別指導事項参照)。</li> <li>4. 白紋羽病対策として、植付前の苗木にトップジンM水和剤を浸漬処理した場合、または休眠期にトップジンM水和剤を掘り上げ灌注処理した場合は、当年のみキャプレート水和剤を使用しない。</li> </ol>
10a 当り	動噴 450~500ℓ						
散布量	S S 400ℓ						
7月 中旬	<p>殺菌剤 〔有機銅水和剤80 (オキシンドー、キノンドー) 83g〕 〔有機銅フロアブル (キノンドー、ドキリン) 100ml〕 のいずれか 殺虫剤 (ダイアジノン水和剤 100g)</p> <table border="1" data-bbox="359 1800 751 1897"> <tr> <td>10a 当り</td> <td>動噴 450~500ℓ</td> </tr> <tr> <td>散布量</td> <td>S S 400ℓ</td> </tr> </table>	10a 当り	動噴 450~500ℓ	散布量	S S 400ℓ	<p>輪黒病 紋星病 胴枯病 うどんこ病 シンクイムシ類 カメムシ類 クワコナカイガラムシ ナシホソガ ヒメボクトウ ハダニ類</p>	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. カメムシ類の多い場合は、別表-2-1の殺虫剤を散布する。</li> <li>2. 標高600m以下の地帯では、クワコナカイガラムシ第1世代幼虫が発生してくるので、防除の重要な時期である。</li> </ol>
10a 当り	動噴 450~500ℓ						
散布量	S S 400ℓ						

時期	散布薬剤と薬量(水 100ℓ 当り)及び散布量	発生病害虫名 (太字は防除) 重要病虫害	注 意 事 項				
7 月 下旬	<p>殺菌剤 〔有機銅水和剤 80 (オキシンドー、キノンドー) 83g 有機銅フロアブル (キノンドー、ドキリン) 100ml オキシラン水和剤 200g〕 のいずれか</p> <p>殺虫剤 〔ダイアジノン水和剤 100g ダントツ水溶剤 50g モスピラン顆粒水溶剤 50g〕 のいずれか</p> <p>殺ダニ剤 (別表-3による)</p> <table border="1" data-bbox="359 869 751 965"> <tr> <td>10a 当り</td> <td>動噴 450~500ℓ</td> </tr> <tr> <td>散布量</td> <td>S S 400ℓ</td> </tr> </table>	10a 当り	動噴 450~500ℓ	散布量	S S 400ℓ	<p>輪 紋 病 黒 星 病 胴 枯 病 シンクイムシ類 ハダニ類 カメムシ類 クワコナカイガラムシ ナシホソガ ヒメボクトウ</p>	<ol style="list-style-type: none"> <li>ハダニ類はこの時期に高温乾燥傾向になると多発しやすくなるので、梅雨明け時期に注意して殺ダニ剤を散布する。</li> <li>ハダニ類が多発すると葉の黒変、早期落葉の原因となるので、発生初期に徹底して防除する。殺ダニ剤はローテーションを考慮して選択する。</li> <li>ダントツ、モスピランは、蚕毒に特に注意する(特別指導事項参照)。</li> </ol>
10a 当り	動噴 450~500ℓ						
散布量	S S 400ℓ						
8 月 上旬	<p>殺菌剤 〔ベルコート水和剤 100g ベルコートフロアブル 66ml〕 のいずれか</p> <p>殺虫剤 〔アグロスリン水和剤 100g スカウトフロアブル 50ml ロディー水和剤 100g バリアード顆粒水和剤 50g ジノテフラン顆粒水溶剤 (アルバリン、スタークル) 50g〕 のいずれか</p> <table border="1" data-bbox="359 1480 751 1576"> <tr> <td>10a 当り</td> <td>動噴 450~500ℓ</td> </tr> <tr> <td>散布量</td> <td>S S 400ℓ</td> </tr> </table>	10a 当り	動噴 450~500ℓ	散布量	S S 400ℓ	<p>黒 星 病 う どん こ 病 シンクイムシ類 クワコナカイガラムシ ハダニ類 ハマキムシ類 カメムシ類</p>	<ol style="list-style-type: none"> <li>黒星病の多い園では収穫直後に有機銅水和剤 80 (オキシンドー、キノンドー) の 1,200 倍液あるいは有機銅フロアブル (キノンドー、ドキリン) の 1,000 倍液を散布する。</li> <li>カメムシ類が多い場合は、左記の剤にかえて別表-2-1 から選択してもよい。</li> <li>標高 600m 以上の地帯ではクワコナカイガラムシ第 1 世代成虫が発生し、この世代が産卵した卵で越冬するので徹底して防除する。</li> <li>ハダニ類の発生園では殺ダニ剤を散布する。</li> <li>アグロスリン、スカウト、ロディーは蚕毒・魚毒に、バリアード、ジノテフラン (アルバリン、スタークル) は蚕毒に特に注意する(特別指導事項参照)。</li> </ol>
10a 当り	動噴 450~500ℓ						
散布量	S S 400ℓ						

時期	散布薬剤と薬量(水 100ℓ 当り)及び散布量	発生病害虫名 (太字は防除) 重要病虫害	注 意 事 項												
8月 中・下旬	<p>「豊水」 殺虫剤</p> <table border="0"> <tr> <td>アーデント水和剤</td> <td>100g</td> </tr> <tr> <td>サイハロン水和剤</td> <td>50g</td> </tr> <tr> <td>テルスター水和剤</td> <td>100g</td> </tr> <tr> <td>バリアード顆粒水和剤</td> <td>50g</td> </tr> </table> <p>のいずれか</p> <table border="1" data-bbox="359 555 751 651"> <tr> <td>10a 当り</td> <td>動噴 450～500ℓ</td> </tr> <tr> <td>散布量</td> <td>S S 400ℓ</td> </tr> </table>	アーデント水和剤	100g	サイハロン水和剤	50g	テルスター水和剤	100g	バリアード顆粒水和剤	50g	10a 当り	動噴 450～500ℓ	散布量	S S 400ℓ	<p>輪 紋 病 黒 星 病 う どん こ 病 シ <b>ク</b>イムシ類</p>	<p>1. アーデント、サイハロン、テルスターは蚕毒・魚毒に、バリアードは蚕毒に特に注意する（特別指導事項参照）。</p>
アーデント水和剤	100g														
サイハロン水和剤	50g														
テルスター水和剤	100g														
バリアード顆粒水和剤	50g														
10a 当り	動噴 450～500ℓ														
散布量	S S 400ℓ														
9月 上旬	<p>「豊水」 殺虫剤</p> <table border="0"> <tr> <td>アグロスリン水和剤</td> <td>100g</td> </tr> <tr> <td>ロディー水和剤</td> <td>100g</td> </tr> <tr> <td>スカウトフロアブル</td> <td>50ml</td> </tr> <tr> <td>ジノテフラン顆粒水溶剤 (アルバリン、スタークル)</td> <td>50g</td> </tr> </table> <p>のいずれか</p> <table border="1" data-bbox="359 1010 751 1106"> <tr> <td>10a 当り</td> <td>動噴 450～500ℓ</td> </tr> <tr> <td>散布量</td> <td>S S 400ℓ</td> </tr> </table>	アグロスリン水和剤	100g	ロディー水和剤	100g	スカウトフロアブル	50ml	ジノテフラン顆粒水溶剤 (アルバリン、スタークル)	50g	10a 当り	動噴 450～500ℓ	散布量	S S 400ℓ	<p>ク <b>ワ</b>コナカイガラムシ ハ <b>マ</b>キムシ類 カ <b>メ</b>ムシ類 ハ <b>ダ</b>ニ類</p>	<p>1. 標高 600m以下の地域では、クワコナカイガラムシ第2世代幼虫の出現期にあたる。 2. アグロスリン、ロディー、スカウトは蚕毒・魚毒に、ジノテフラン（アルバリン、スタークル）は蚕毒に特に注意する（特別指導事項）。 3. 黒星病の多発園では鱗片への感染を防止する目的で10月中旬に有機銅フロアブル（キノンドー、ドキリン）の1,000倍液を散布する。</p>
アグロスリン水和剤	100g														
ロディー水和剤	100g														
スカウトフロアブル	50ml														
ジノテフラン顆粒水溶剤 (アルバリン、スタークル)	50g														
10a 当り	動噴 450～500ℓ														
散布量	S S 400ℓ														
<p><b>農薬の使用回数の注意</b> 使用回数は、収穫後から翌年の収穫までの期間の使用回数であるので注意する。</p>															



(3) 西洋なし(この暦は有袋栽培を中心にしている。無袋栽培では農薬安全使用基準に注意するとともに、注意事項を参照する。)

農薬の使用回数は、収穫後から本年の収穫までの期間の使用回数であるので注意する。

時期	散布薬剤と薬量(水 100ℓ 当り)及び散布量	主要発生病害虫 (太字は防除) (重要病害虫)	注 意 事 項								
休眠期	腐らん病、胴枯病	被害枝は切り取り、患部は削り取ってその痕にトップジンMペーストを塗布する。									
3月下旬	発芽前 <table border="1" style="margin-left: 20px;"> <tr> <td>水</td> <td>(86ℓ)</td> </tr> <tr> <td>石灰硫黄合剤</td> <td>140</td> </tr> </table> <table border="1" style="margin-left: 20px;"> <tr> <td>10a 当り</td> <td>動噴 350ℓ</td> </tr> <tr> <td>散布量</td> <td>S S 300ℓ</td> </tr> </table>	水	(86ℓ)	石灰硫黄合剤	140	10a 当り	動噴 350ℓ	散布量	S S 300ℓ	<b>胴 枯 病</b> <b>腐 ら ん 病</b> <b>ハモグリダニ</b> ナシマルカイガラムシ リンゴハダニ	1. 暖かい日を選んでいねいに散布する。 2. 薬剤散布前に粗皮けずりを実行する。 3. ナシマダラメイガの被害芽を剪除する。 4. リンゴハダニの越冬卵やナシマルカイガラムシが多い場合にはマシン油乳剤50倍液を散布する。なお、マシン油乳剤は、商品ごとに登録内容を確認すること。
水	(86ℓ)										
石灰硫黄合剤	140										
10a 当り	動噴 350ℓ										
散布量	S S 300ℓ										
4月中旬	開花前 殺虫剤 (カスケード乳剤 50mℓ) <table border="1" style="margin-left: 20px;"> <tr> <td>10a 当り</td> <td>動噴 350ℓ</td> </tr> <tr> <td>散布量</td> <td>S S 300ℓ</td> </tr> </table>	10a 当り	動噴 350ℓ	散布量	S S 300ℓ	<b>ナシマダラメイガ</b> <b>ハマキムシ類</b> ナシミハバチ ナシキジラミ	1. カスケードは、蚕毒に特に注意する(特別指導事項参照)。				
10a 当り	動噴 350ℓ										
散布量	S S 300ℓ										
5月上旬	落花直後 殺虫剤 (別表-2-1による) <table border="1" style="margin-left: 20px;"> <tr> <td>10a 当り</td> <td>動噴 400~450ℓ</td> </tr> <tr> <td>散布量</td> <td>S S 350ℓ</td> </tr> </table>	10a 当り	動噴 400~450ℓ	散布量	S S 350ℓ	<b>ケムシ類</b> リンゴハダニ アブラムシ類 ハマキムシ類 ナシマダラメイガ ナシミハバチ ナシキジラミ	1. リンゴハダニの多い場合は、殺ダニ剤を散布する(別表-3参照)。				
10a 当り	動噴 400~450ℓ										
散布量	S S 350ℓ										
5月中旬	殺菌剤 (キャブレート水和剤 166g) 炭酸カルシウム水和剤 1kg 殺虫剤 (ダントツ水溶剤 25g) (モスピラン顆粒水溶剤 25g) のいずれか <table border="1" style="margin-left: 20px;"> <tr> <td>10a 当り</td> <td>動噴 400~450ℓ</td> </tr> <tr> <td>散布量</td> <td>S S 350ℓ</td> </tr> </table>	10a 当り	動噴 400~450ℓ	散布量	S S 350ℓ	<b>輪 紋 病</b> <b>胴 枯 病</b> <b>腐 ら ん 病</b> <b>黒 点 病</b> <b>カメムシ類</b> <b>アブラムシ類</b> ケムシ類 ミダレカクモンハマキ	1. 胴枯病の枝への感染防止にはこの時期の防除が重要である。 2. 腐らん病の被害が目立ってくるので、園内を一斉点検し処理する。 3. 炭酸カルシウム水和剤(クレフノン、アブロン)100倍を殺菌剤に加用するとさび果の発生が軽減される。 4. <b>ダントツ、モスピランは、蚕毒に特に注意する(特別指導事項参照)。</b> 5. 白紋羽病対策として、植付前の苗木にトップジンM水和剤を浸漬処理した場合、または休眠期にトップジンM水和剤を掘り上げ灌漑処理した場合は、当年のみキャブレート水和剤を使用しない。				
10a 当り	動噴 400~450ℓ										
散布量	S S 350ℓ										

時期	散布薬剤と薬量(水 100ℓ 当り)及び散布量	主要発生病害虫 (太字は防除) 重要病害虫	注 意 事 項				
5 月 下 旬	<p>殺菌剤 〔キャプレート水和剤 166g〕 〔ストロビードライフロアブル 50g〕 のいずれか</p> <table border="1" data-bbox="359 495 751 589"> <tr> <td>10a 当り</td> <td>動噴 400～450ℓ</td> </tr> <tr> <td>散布量</td> <td>S S 350ℓ</td> </tr> </table>	10a 当り	動噴 400～450ℓ	散布量	S S 350ℓ	<p>輪紋病 胴枯病 腐らん病 黒点病 カメムシ類 アブラムシ類 クワコナカイガラムシ ケムシ類</p>	<ol style="list-style-type: none"> <li>これ以降袋掛けは、殺菌剤散布後早めに行う。</li> <li>ストロビーは、開花始めから落花30日後頃までの散布において、日本なしに薬害を発生させるおそれがあるので注意する。</li> <li>ストロビーは、ぶどう及びおうとうに薬害を生ずるおそれがあるので注意する(別表-1の注意事項参照)。</li> <li>クワコナカイガラムシの防除適期である。</li> <li>白紋羽病対策として、植付前の苗木にトップジンM水和剤を浸漬処理した場合、または休眠期にトップジンM水和剤を掘り上げ灌注処理した場合は、当年のみキャプレート水和剤を使用しない。</li> </ol>
10a 当り	動噴 400～450ℓ						
散布量	S S 350ℓ						
6 月 上 旬	<p>殺菌剤 〔オキシラン水和剤 200g〕 〔キャプレート水和剤 166g〕 有機銅水和剤80 (オキシンドー、キノンドー) 83g のいずれか</p> <p>炭酸カルシウム水和剤 1kg</p> <table border="1" data-bbox="336 1240 729 1335"> <tr> <td>10a 当り</td> <td>動噴 450～500ℓ</td> </tr> <tr> <td>散布量</td> <td>S S 350～400ℓ</td> </tr> </table>	10a 当り	動噴 450～500ℓ	散布量	S S 350～400ℓ	<p>輪紋病 胴枯病 黒点病 カメムシ類 アブラムシ類 クワコナカイガラムシ</p>	<ol style="list-style-type: none"> <li>カメムシ類の多い場合は、殺虫剤を散布する(別表-2-1参照)。</li> <li>ナシマダラメイガの被害果は除去し処分する。</li> <li>白紋羽病対策として、植付前の苗木にトップジンM水和剤を浸漬処理した場合、または休眠期にトップジンM水和剤を掘り上げ灌注処理した場合は、当年のみキャプレート水和剤を使用しない。</li> </ol>
10a 当り	動噴 450～500ℓ						
散布量	S S 350～400ℓ						
6 月 中 旬	<p>殺菌剤 〔ストロビードライフロアブル 50g〕 〔ナリアWDG 50g〕 のいずれか</p> <p>殺虫剤 (サイアノックス水和剤 100g)</p> <table border="1" data-bbox="359 1653 751 1747"> <tr> <td>10a 当り</td> <td>動噴 450～500ℓ</td> </tr> <tr> <td>散布量</td> <td>S S 350～400ℓ</td> </tr> </table>	10a 当り	動噴 450～500ℓ	散布量	S S 350～400ℓ	<p>輪紋病 胴枯病 ハマキムシ類 アブラムシ類 シンクイムシ類 ナシグンバイ カメムシ類</p>	<ol style="list-style-type: none"> <li>この時期以降、輪紋病の重要な防除時期となる。</li> <li>無袋栽培ではICボルドー412の30倍液を散布してもよい。ただし、無袋栽培ではさび果の発生が多くなる。</li> <li>ストロビーはぶどう及びおうとうに薬害を生ずるおそれがあるので注意する(別表-1の注意事項参照)。</li> <li>ナリアは「ル・レクチェ」果実に薬害(さび)を生ずるおそれがある。また、ぶどう「ピオーネ」に薬害のおそれがあるので注意する(別表-1の注意事項参照)。</li> <li>毛振るい前はさび果を生じやすいので、乳剤類は使用しない。</li> <li>ナシマダラメイガの被害果は除去し処分する。</li> </ol>
10a 当り	動噴 450～500ℓ						
散布量	S S 350～400ℓ						

毛振るい後

時期	散布薬剤と薬量(水 100ℓ 当り)及び散布量	主要発生病害虫 (太字は防除) (重要病害虫)	注 意 事 項														
6 月 下 旬 ～ 7 月 上 旬	<p>殺菌剤</p> <table border="0"> <tr> <td>オキシラン水和剤</td> <td>200g</td> </tr> <tr> <td>キャプレート水和剤</td> <td>166g</td> </tr> <tr> <td>有機銅水和剤 80 (オキシンドー、キノンドー)</td> <td>83g</td> </tr> </table> <p>のいずれか</p> <p>殺虫剤</p> <table border="0"> <tr> <td>サイアノックス水和剤</td> <td>100g</td> </tr> <tr> <td>ジノテフラン顆粒水溶剤 (アルバリン、スタークル)</td> <td>50g</td> </tr> </table> <p>のいずれか</p> <p>殺ダニ剤 (別表-3による)</p> <table border="1" data-bbox="359 835 751 929"> <tr> <td>10a 当り</td> <td>動噴 500～550ℓ</td> </tr> <tr> <td>散布量</td> <td>S S 400～450ℓ</td> </tr> </table>	オキシラン水和剤	200g	キャプレート水和剤	166g	有機銅水和剤 80 (オキシンドー、キノンドー)	83g	サイアノックス水和剤	100g	ジノテフラン顆粒水溶剤 (アルバリン、スタークル)	50g	10a 当り	動噴 500～550ℓ	散布量	S S 400～450ℓ	<p>輪 紋 病 胴 枯 病 シンクイムシ類 カメムシ類 ハダニ類 ハマキムシ類 ナシマダラメイガ</p>	<ol style="list-style-type: none"> <li>ナシマダラメイガの産卵期に当たるので、無袋栽培では注意する。</li> <li>カメムシ類の発生園ではカメムシ類に対する殺虫剤を散布する(別表-2-1参照)。</li> <li>ハダニ類はこれから急激に増加するので、防除が遅れないようにする。</li> <li>ジノテフラン(アルバリン、スタークル)は、蚕毒に特に注意する(特別指導事項参照)。</li> <li>白紋羽病対策として、植付前の苗木にトップジンM水和剤を浸漬処理した場合、または休眠期にトップジンM水和剤を掘り上げ灌注処理した場合は、当年のみキャプレート水和剤を使用しない。</li> </ol>
オキシラン水和剤	200g																
キャプレート水和剤	166g																
有機銅水和剤 80 (オキシンドー、キノンドー)	83g																
サイアノックス水和剤	100g																
ジノテフラン顆粒水溶剤 (アルバリン、スタークル)	50g																
10a 当り	動噴 500～550ℓ																
散布量	S S 400～450ℓ																
7 月 中 旬	<p>殺菌剤</p> <table border="0"> <tr> <td>ベルコート水和剤</td> <td>100g</td> </tr> <tr> <td>ベルコートフロアブル</td> <td>66g</td> </tr> <tr> <td>オキシラン水和剤</td> <td>200g</td> </tr> <tr> <td>有機銅水和剤 80 (オキシンドー、キノンドー)</td> <td>83g</td> </tr> </table> <p>のいずれか</p> <table border="1" data-bbox="359 1227 751 1321"> <tr> <td>10a 当り</td> <td>動噴 500～550ℓ</td> </tr> <tr> <td>散布量</td> <td>S S 400～450ℓ</td> </tr> </table>	ベルコート水和剤	100g	ベルコートフロアブル	66g	オキシラン水和剤	200g	有機銅水和剤 80 (オキシンドー、キノンドー)	83g	10a 当り	動噴 500～550ℓ	散布量	S S 400～450ℓ	<p>輪 紋 病 胴 枯 病 ハダニ類 シンクイムシ類 カメムシ類</p>	<ol style="list-style-type: none"> <li>高温乾燥期になり、葉やけなど薬害が発生しやすくなる。朝の涼しい時に散布する。</li> <li>ベルコートは、「ル・レクチェ」に薬害を生ずるので使用しない。</li> <li>無袋栽培では、シンクイムシ類に対する殺虫剤を散布する(別表-2-1参照)。</li> </ol>		
ベルコート水和剤	100g																
ベルコートフロアブル	66g																
オキシラン水和剤	200g																
有機銅水和剤 80 (オキシンドー、キノンドー)	83g																
10a 当り	動噴 500～550ℓ																
散布量	S S 400～450ℓ																
7 月 下 旬 ～ 8 月 上 旬	<p>殺菌剤</p> <table border="0"> <tr> <td>オキシラン水和剤</td> <td>200g</td> </tr> <tr> <td>有機銅水和剤 80 (オキシンドー、キノンドー)</td> <td>83g</td> </tr> <tr> <td>ベルコート水和剤</td> <td>100g</td> </tr> <tr> <td>ベルコートフロアブル</td> <td>66g</td> </tr> </table> <p>のいずれか</p> <p>殺虫剤 (別表-2-1による)</p> <p>殺ダニ剤 (別表-3による)</p> <table border="1" data-bbox="359 1839 751 1933"> <tr> <td>10a 当り</td> <td>動噴 500～550ℓ</td> </tr> <tr> <td>散布量</td> <td>S S 400～450ℓ</td> </tr> </table>	オキシラン水和剤	200g	有機銅水和剤 80 (オキシンドー、キノンドー)	83g	ベルコート水和剤	100g	ベルコートフロアブル	66g	10a 当り	動噴 500～550ℓ	散布量	S S 400～450ℓ	<p>輪 紋 病 胴 枯 病 ハマキムシ類 シンクイムシ類 カメムシ類</p>	<ol style="list-style-type: none"> <li>無袋栽培では、この回と次回ベルコートを用い、間隔を開けすぎないように散布する。また、これ以降は、汚れが発生する炭酸カルシウム水和剤は使用しない。</li> <li>ベルコートは、「ル・レクチェ」に薬害を生じるので使用しない。</li> <li>ナシマダラメイガの被害果は除去し処分する。</li> <li>ハダニ類が発生すると葉が黒変し、早期落葉の原因となるので、発生初期のうちに防除する。</li> </ol>		
オキシラン水和剤	200g																
有機銅水和剤 80 (オキシンドー、キノンドー)	83g																
ベルコート水和剤	100g																
ベルコートフロアブル	66g																
10a 当り	動噴 500～550ℓ																
散布量	S S 400～450ℓ																

時期	散布薬剤と薬量(水 100ℓ 当り)及び散布量	主要発生病害虫 (太字は防除) (重要病害虫)	注 意 事 項												
8 月 中 旬	<p>殺菌剤</p> <table border="0"> <tr> <td>オキシラン水和剤</td> <td>200g</td> </tr> <tr> <td>有機銅水和剤 80 (オキシンドー、キノンドー)</td> <td>83g</td> </tr> <tr> <td>ベルコート水和剤</td> <td>100g</td> </tr> <tr> <td>ベルコートフロアブル</td> <td>66g</td> </tr> </table> <p>のいずれか</p> <table border="1" data-bbox="359 589 751 683"> <tr> <td>10a 当り</td> <td>動噴 500～550ℓ</td> </tr> <tr> <td>散布量</td> <td>S S 400～450ℓ</td> </tr> </table>	オキシラン水和剤	200g	有機銅水和剤 80 (オキシンドー、キノンドー)	83g	ベルコート水和剤	100g	ベルコートフロアブル	66g	10a 当り	動噴 500～550ℓ	散布量	S S 400～450ℓ	<p>輪 紋 病 胴 枯 病 ハ ダ ニ 類 ナ シ グ ン バ イ シ ン ク イ ム シ 類</p>	<p>1. 無袋栽培の晩生種では、9月上旬にもオキシラン又は有機銅水和剤 80を散布する。 2. ベルコートは、「ル・レクチェ」に薬害を生じるので使用しない。 3. 無袋栽培ではシンクイムシ類に対する殺虫剤を散布する(別表-2-1参照)。</p>
オキシラン水和剤	200g														
有機銅水和剤 80 (オキシンドー、キノンドー)	83g														
ベルコート水和剤	100g														
ベルコートフロアブル	66g														
10a 当り	動噴 500～550ℓ														
散布量	S S 400～450ℓ														
<p><b>農薬の使用回数の注意</b> 使用回数は、収穫後から翌年の収穫までの期間の使用回数であるので注意する。</p>															

**【病害防除の留意点】**

1. 紋羽病は、早期発見に努める。発病を認めたとき、感染の疑いのあるときには「果樹の土壌病害」の項を参照する。
2. 薬液は、樹全体にまんべんなくかかるようにする。
3. 赤星病は、ビャクシン類を中間宿主とするので、ビャクシン類が多いところでは注意し、可能であればビャクシン類を伐採する。コニファー(西洋ビャクシン)の中にも赤星病の中間宿主となる品種があるので注意する。
4. 胴枯病菌は、凍寒害や日焼けなどの傷口から侵入するので、樹を健全に保ち、晩秋に石灰硫黄合剤7倍液を散布すると発病が軽減される。
5. 落葉は、黒星病菌など病害虫の越冬源となるので、ていねいに集め焼却するか埋却する。
6. 赤衣病、胴枯病、輪紋病などの枝幹性病害が多発傾向にあるので、薬剤散布の場合は枝幹部まで十分散布する。
7. えそ斑点病の発生樹はなるべく伐採するか、着果量を少なくし、樹勢の維持増進をはかる。

【別表－１】殺菌剤の適用病害に対する使用方法及び効果

・使用にあたっては、登録内容を再確認すること（表中の登録内容は令和６年１１月３０日現在）。

薬 剤 名	F R A C コード	使 用 基 準  (収 穫 前 日 数)	使 用 回 数  (以 内)	希 積 倍 数 (倍)	対象病害に対する効果						注 意 事 項 番 号			
					黒 斑 病	黒 星 病	赤 星 病	輪 紋 病	う ど ん こ 病	心 腐 れ 症				
D M I 剤	アンビルフロアブル	3	7日	3回	2,000		○*	○		○		1, 2		
	インダーフロアブル		7日	3回	12,000		○*	○				1, 2		
	スコア顆粒水和剤		14日	3回	2,000	○*	○	○	○			1, 2, 10		
	トリフミン水和剤		前日	3回	3,000		○*	○*				1, 2		
	ベランティーフロアブル		14日	3回	8,000	○*	○*	○		○		1, 2		
	ラリー水和剤		14日	3回	3,000		○*	○*				1, 2		
ベンゾイ ミダゾ ール系 剤及 び混 合 剤	トップジンM水和剤	1	前日	6回	1,500		○*		○	○*	○*	1, 24		
	ベンレート水和剤		前日	4回	3,000		○*		○	○*	○*	1, 25		
	キャプレート水和剤	M4+1	7日	4回	600		○*		○			1, 25		
ポリオキシ ンA L 水和 剤	19	7日	5回	1,000	○*				○*		1			
ロブラール 水和 剤	2	14日	5回	1,500	○*						1			
Q o I 剤 及 び 混 合 剤	スクレアフロアブル	11	前日	3回	3,000		○*		○	○	○	1, 3		
	ストロビー ドライフロアブル				2,000	○*		○*	○			1, 3, 5, 13		
	ファンタジスタ顆粒水和剤				3,000	○	○*		○	○		1, 3, 20		
	ナリアWDG	11+7	前日	3回	2,000	○*	○*		○*	○*		1, 3, 11, 15		
SDHI 剤	カナメフロアブル	7	前日	3回	8,000		○*	○				1, 3, 20		
	バシタック水和剤		60日	5回	1,000			○*				1, 3, 20		
	フルーツセイバー		前日	3回	2,000		○*	○		○		1, 3		
ユニックス 顆粒 水和 剤	9	21日	3回	2,000	○	○*					16			
ミギワ20 フロア ブル	52	前日	3回	4,000		○*			○		1, 3			
有 機 銅 剤 及 び 混 合 剤	オキシドール水和剤80	M1	3日	9回	1,200	○*	○*		○			4, 19		
	キノドール水和剤80				1,200	○*	○*		○				4, 19	
	キノドールフロアブル				1,000	○*	○*		○					4, 19
	ドキリンフロアブル				1,000	○*	○*		○					
オキシラン水和剤	M4+M1	3日	9回	500	○	○		○			19			
ベルコート 水和 剤	M7	14日	5回	1,000	○*	○*		○*	○		9, 20			
ベルコートフロアブル				1,500	○*	○*		○*	○					
チオノック フロア ブル	M3	30日	5回	500	○*	○*	○			○*	4, 19, 20, 21			
トレノックスフロアブル														
アントラコ ール顆 粒水 和 剤	M3	45日	4回	500	○*	○	○				6			
デランフロ アブル	M9	60日	4回	1,000	△	○*	○	○		○*	7, 19			
アリエッティ C水和 剤	M4+P7	14日	3回	800	○*			○			14, 22			
フロンサイ ドS C	29	30日	1回	2,000	○*	○*		○			12, 17, 19			

薬 剤 名	FRACコード	使用基準 (収穫前日数)	使用回数 (以内)	希釈倍数 (倍)	対象病害に対する効果						注意事項番号
					黒斑病	黒星病	赤星病	輪紋病	うどんこ病	心腐れ症	
ICボルドー412	M1	—	—	30				○*			6, 8
ICボルドー48Q		収穫後 開花前	—	30		○*					6, 8
ボルドー液	M1	—	—	4-8式 (開花後) 4-12式 6-12式 (開花前)	○	○		○			6, 8, 19, 23
休眠期	石灰硫黄合剤	M2	発芽前	—	7		○*				18

【効果凡例】

○\* : 効果がある(対象病害に普及済み) ○ : 効果ある(対象病害に未普及) △ : 効果劣る  
( ) : カッコ内の希釈倍数で対象病害に登録がある。

【注意事項】

散布時期・耐性菌などに対する注意

1. 薬剤耐性菌の出現を防ぐためFRACコードを参考にし、同一薬剤、同系統薬剤の過度の連用及び多数回使用は避け、異なる作用機構の薬剤をローテーションで使用する。特にDMI剤(FRACコード3)、ポリオキシンを含む剤(FRACコード19)、ロブラルを含む剤(FRACコード2)、ベンゾイミダゾール系剤(FRACコード1)、ミギワ(FRACコード52)、QoI剤(FRACコード11)及びSDHI剤(FRACコード7)は耐性菌出現の危険性が高い剤である。
2. DMI剤は既にナシ黒星病菌に対する効力低下が確認されている。さらなる効力低下を防ぐため、年間2回以内の使用を原則とする。
3. ミギワ、QoI剤、SDHI剤は、薬剤耐性菌出現を防ぐため、年2回以内の使用にとどめる。
4. 有効成分、成分量が同一である。

なしの薬害に関する注意

5. ストロビーは、開花始めから落花後30日頃までの散布において、葉に薬害(クロロシス、波打ち)を生じるおそれがあるので使用しない。
6. アントラコールは、ICボルドーやボルドー液と近接散布すると薬害を生じるおそれがあるので注意する。
7. デランは、浸達性展着剤(アプローチB Iなど)を加用して使用すると、薬害を発生するので加用しない。
8. ICボルドー412の生育期散布は、西洋なしにのみ使用する。但し、ICボルドーを無袋栽培で使用すると、果面のさび発生が多くなる。ボルドー液の生育期(開花期以降)の使用は有袋の「二十世紀」に限る。但し、8月以降の使用は雨やけ果の発生を多くする。
9. ベルクートは、西洋なし「ル・レクチェ」に薬害を生じるので使用しない。
10. スコアは、西洋なし「ル・レクチェ」果実に薬斑を生じることがある。
11. ナリアWDGは、日本なしの開花始めから落花20日後頃までの散布で葉に薬害(黄化)を生じるおそれがあるので使用しない。また西洋なし「ル・レクチェ」果実に薬害(さび)を生じるおそれがある。
12. フロンサイドは、幸水等の赤なしの幼木や樹勢の劣る樹では、新葉に薬害が発生するおそれがあるので注意する。

他作物の薬害に対する注意

13. ストロビーは、「巨峰」及び「デラウェア」以外のブドウ品種、特に「ロザリオビアンコ」の葉に著しい薬害を生じるおそれがある。また、開花期以降のおうとうにも薬害を生じるおそれがあるので注意する。
14. アリエッティCは、ぶどうに対して幼果期から果実肥大期までは、果実に薬害を生じるおそれがあるので注意する。
15. ナリアWDGは、ぶどう品種「ピオーネ」に薬害を生じるおそれがあるので注意する。

16. ユニックスは、おうとうに薬害を生じるおそれがあるのでかからないようにする。

#### 散布者及び散布時の注意

17. フロンサイドSCは、人によってかぶれることがあるので、かぶれやすい人は使用しない。また、散布後の再入園によってもかぶれが生じる。
18. 石灰硫黄合剤は皮ふに刺激があるので注意する。

#### 蚕・魚に対する注意

19. チウラム（チオノック、トレノックス）、デラン、フロンサイド、ボルドー液、有機銅（オキシラン、オキシンドー、キノンドー、ドキリン）は、魚毒に注意する。
20. カナメ、チウラム（チオノック、トレノックス）、バシタック、ファンタジスタ、ベルコートは、蚕毒に注意する。

#### その他の注意

21. チオノック、トレノックスは、銅剤と混用すると赤色の凝集を生ずるので混用しない。
22. アリエッティCは、カネマイト、コテツと混用すると凝集を起こすので混用しない。
23. ボルドー液用の硫酸銅、生石灰は商品によって登録内容が異なるので確認して使用する。
24. チオファネートメチルを含む剤（トップジンM水和剤等）を使用した場合には、ベノミルを含む剤（ベンレート水和剤及びキャプレート水和剤等）を使用しないこと。ただし、塗布処理は除く。
25. ベノミルを含む剤（ベンレート水和剤及びキャプレート水和剤等）を使用した場合には、チオファネートメチルを含む剤（トップジンM水和剤等）を使用しないこと。ただし、塗布処理は除く。

害虫防除の留意点

1. 害虫は、発生状況によって防除の可否を見極める。 2. 一般的には若齢幼虫期が散布適期である。散布時期を逸すると効果が劣るので注意する。

【別表－2－1】殺虫剤の使用方法及び効果

・使用にあたっては、登録内容を再確認すること（表中の登録内容は令和6年11月30日現在）。

系 統	薬 剤 名	I R A C コ ー ド	希 釈 倍 数 ( 倍 )	シ ン ク イ ム シ 類	モ モ シ ン ク イ ガ	ハ マ キ ム シ 類	ケ ム シ 類	ア メ リ カ シ ロ ヒ ト リ	モ ン シ ロ ド ク ガ	ナ シ ホ ソ ガ	ナ シ チ ビ ガ	ヒ メ ボ ク ト ウ	ク ワ コ ナ カ イ ガ ラ ム シ	ア ブ ラ ム シ 類	カ メ ム シ 類	ア ブ ラ ゼ ミ	ナ シ グ ン バ イ	ナ シ キ ジ ラ ミ	ナ シ ミ ハ バ チ	ボ ル ド ー 液 と の 混 用	使 用 基 準  ( 収 穫 前 日 数 )	使 用 回 数  ( 以 内 )
有 機 リ ン	サイアノックス水和剤	1	1,000	○*		○*							○*	△							7日(有袋) 45日(無袋)	3 3
	スミチオン水和剤40	1	1,000	○*		△					○		○*	△	○*		○	○			14日(有袋) 21日(無袋)	6 6
	ダイアジノン水和剤 (日本なし, 西洋なし)	1	1,000	○		○*		○	○				○*	△			○				14日	6 (休1)
カ ー バ メ ー ト	オリオン水和剤	1	1,000	○		○*	○						○*	○*						×	3日	2
	マイクロデナポン水和剤 (日本なし)	1	1,000	(1,200)							○		○*	○			○		(1,200)	×	60日	3
B T ( 生 菌 )	バイオマックスDF	11	2,000~ 3,000			○*	○													×	前日	—
	ファイブスター顆粒水和剤	11	1,000 2,000			○*	○													×	前日	—
合 成 ピ レ ス ロ イ ド 及 び 類 似 化 合 物 ( 混 合 剤 を 含 む )	アーデント水和剤	3	1,000	○										○*	○						7日	3
	アグロスリン水和剤	3	1,000	○		○					○			○*	○	○					前日	3
	サイハロン水和剤	3	2,000	○		○					○			○*	○						7日	3
	スカウトフロアブル	3	2,000	○							○			○*							前日	5
	テルスター水和剤	3	1,000	○		○					○			○*	○						前日	2
	マブリックEW	3	2,000		○	○				○				○*	○		○				30日	2
	ロディー水和剤	3	1,000	○		○								○*	○						前日	2
	ロビンフード	3	—										○*								前日	5
I G R	アプロード水和剤	16	1,000										○*								30日	2
	カスケード乳剤	15	2,000			○*														△	14日	2



系 統	薬 剤 名	I R A C コ ド	希 釈 倍 数 ( 倍 )	シ ン ク イ ム シ 類	モ モ シ ン ク イ ガ	ハ マ キ ム シ 類	ケ ム シ 類	ア メ リ カ シ ロ ヒ ト リ	モ ン シ ロ ド ク ガ	ナ シ ホ ソ ガ	ナ シ チ ビ ガ	ヒ メ ボ ク ト ウ	ク ワ コ ナ カ イ ガ ラ ム シ	ア ブ ラ ム シ 類	カ メ ム シ 類	ア ブ ラ ゼ ミ	ナ シ グ ン バ イ	ナ シ キ ジ ラ ミ	ナ シ ミ ハ バ チ	ボ ル ド ー 液 と の 混 用	使 用 基 準  ( 収 穫 前 日 数 )	使 用 回 数  ( 以 内 )		
ネ オ ニ コ チ ノ イ ド	アドマイヤー水和剤	4	2,000											○*							3日 <sup>注1</sup>	2		
	アドマイヤーフロアブル	4	5,000											○*										
	アルバリン顆粒水溶剤	4	2,000	○*				○					○	○*	○*							前日	3	
	スタークル顆粒水溶剤	4																						
	ダントツ水溶剤	4	2,000	○*				○					○*	○	○*							前日	3	
			4,000	○				○					○	○*	○									
	バリアード顆粒水和剤	4	2,000	○*									(4,000)	○	○							前日	3	
	ベストガード水溶剤	4	1,000											○*	○							14日	3	
モスピラン顆粒水溶剤	4	2,000	○*									○	○	○							前日	3		
		4,000	○							○		○*	○*	○										
ス レ イ ミ ン ホ キ ン	トランスフォームフロアブル	4	4,000											○*							前日	3		
ジ ア ミ ド	エクシレルSE	28	5,000	○*		○	○					○									前日	3		
	サムコルフロアブル	28	5,000	○*		○*	○					○									前日	3		
	フェニックス顆粒水和剤	28	4,000	○*		○*	○														前日	2		
	フェニックスフロアブル	28		○*		○	○					○												
	ヨーバルフロアブル	28	5,000	○*		○						○									前日	2		
そ の 他	ウララDF	29	2,000											○*							14日	2		
	ディアナWDG	5	10,000	○*		○*															前日	2		
	デリゲートWDG																							
	ハチハチフロアブル	21	2,000										○	○*							30日	1		

【使用基準】(注1)：ただし、露地栽培については発芽期から開花期を除く

【効果凡例】○\*：効果ある(対象害虫に普及済み) ○：効果ある(対象害虫に未普及) △：効果劣る

( )：カッコ内の希釈倍数で対象害虫に登録がある。アルバリンとスタークル、ディアナとデリゲートは、同一薬剤である。

【ボルドー液混用】×：成分が分解するか、又は散布液の物理性が著しく低下する。△：効力が低下する。

【その他】：(休1)：休眠期1回。クワコナカイガラムシのうち、ダイアジノンの適用はコナカイガラムシ類若齢幼虫、アブロードの適用はカイガラムシ類幼虫、アルバリン、スタークル、ダントツの適用はコナカイガラムシ類、オリオン、モスピランの適用はカイガラムシ類。

【別表－２－２】殺虫剤の使用法方法及び効果

・使用にあたっては、登録内容を再確認すること（表中の登録内容は令和6年11月30日現在）。

薬 剤 名		I R A C コ ド	使用 基 準 ( 収 穫 前 日 数 )	使用 回 数 ( 以 内 )	希 釈 倍 数 ( 倍 )	ハ ダ ニ 類	カ イ ガ ラ ム シ 類	ニ セ ナ シ サ ビ ダ ニ	注 意 事 項 番 号
休 眠 期	クムラス	UN	—	—	300	○		○*	7, 11
	石灰硫黄合剤	UN	発芽前	—	7	○	○	○	10
	ハーベストオイル	UNM	発芽前	—	50	○	○	○*	

【効果凡例】 ○\*：効果ある（対象害虫に普及済み） ○：効果ある（対象害虫に未普及） △：効果劣る

【注意事項】

散布時期・抵抗性などに対する注意

- ワタアブラムシは、有機リン剤に抵抗性を持つことが多い。
- 合成ピレスロイド剤は、カブリダニなど天敵に強い影響があり、多用するとハダニ類やカイガラムシ類が異常発生するおそれがある。さらに薬剤抵抗性の発達を避けるために年1回の使用を原則とする。
- アプロードは、IGR剤の一種であり、若令幼虫以外には効果が劣るので、適期に散布する。

なしの薬害に対する注意

- スミチオンは、‘早生赤’に薬害のおそれがあるので使用しない。
- モスピランは、「長十郎」・「新高」・「サザンスイート」に薬害を生じることがある。
- 「幸水」・「豊水」は、収穫2週間程前から乳剤を散布すると薬害（果点が褐変症状）を生じることがある。
- クムラスは生育期間中に使用すると薬害を生じる可能性があるため、発芽前までに散布する。

他作物の薬害に対する注意

- スミチオンは、ほうきもろこしに薬害が生じる。

散布者及び散布時の注意

- 合成ピレスロイド剤は、人によってかぶれや、くしゃみが出るので注意する。
- 石灰硫黄合剤は皮膚に刺激があるので注意する。
- クムラスは眼に対して刺激性があるので眼に入らないように注意する。

蚕・魚に対する注意

- 合成ピレスロイド剤は蚕毒・魚毒が、IGR剤（アプロードを除く）、BT剤（生菌）は蚕毒が極めて強く、使用地域の指定があるのでこれ以外では使用しない（特別指導事項参照）。
- 合成ピレスロイド剤のうち、ロビンフードは通常の使用方法では飛散の危険性が少なく、使用地域の指定はないが、有効成分の蚕毒が強いため、使用方法を厳守するとともに桑に付着するおそれのある場所では使用しない（特別指導事項参照）。
- アドマイヤー、エクシレル、オリオン、サムコル、ジノテフラン（アルバリン、スタークル）、ダントツ、バリアード、フェニックス、モスピラン、ヨーバル、ロビンフードは、特に蚕毒が強いため桑園付近で使用しない（特別指導事項参照）。
- ハチハチは、蚕毒・魚毒に注意する。
- スミチオンは、魚毒に注意する。

その他の注意

- ウララは、ストロビー、フロンサイドSCと混用すると薬害を助長するおそれがある。
- スピネトラム（ディアナ、デリゲート）、トランスフォーム、エクシレルは、蜜蜂、マメコバチに影響があるので、地域の訪花活動期間中は使用しない。

**交信かく乱剤の設置時期・量**

交信かく乱剤は、殺虫効果がなく、交尾を阻害し次世代の増殖を抑制するものである。交信かく乱剤のみで対象害虫を防除することは不可能である。必ず殺虫剤による補完防除を行う。なお、複数の対象害虫に対して使用する場合、殺虫剤の散布回数の削減が可能である。

・使用にあたっては、登録内容を再確認すること（表中の登録内容は令和6年11月30日現在）。

薬剤名	適用害虫名	設置時期・量	設置方法
コンフューザーN	モモシンクイガ ナシヒメシンクイ チャノココクモンハマキ チャハマキ リンゴココクモンハマキ リンゴモンハマキ	5月上旬から5月中 下旬まで 200本/10a	棚面の枝に巻き付け、又は挟み込む
ボクトウコンーH	ヒメボクトウ	5月下旬から6月上旬まで 100本/10a	

注) 設置は、2割を園の周縁部へ、8割を全体に均一になるように行う。フェロモントラップを設置し、交信かく乱の状況を把握することが望ましい。モモシンクイガやハマキムシ類が少なく、ナシヒメシンクイの多い園では早めに設置してもよい。なおナシヒメシンクイの多発園では、5月中下旬に設置しても8月以降の交尾阻害効果は不安定となりやすい。ナシヒメシンクイは、なしでは収穫直前に果実被害を受けやすいので注意する。

**【別表-3】ハダニ防除の留意点、殺ダニ剤の使用法**

1. 散布むらはハダニの多発を招く。樹冠内部まで十分に薬液が到達するような整枝せん定をする。
2. 殺ダニ剤散布前には不必要な徒長枝切りを励行し、手散布や縦横走行散布などで散布むらを補う。
3. 乾燥・高温はナミハダニの発生に好条件である。早めに防除を開始する。
4. 多発が予想される場合は、散布量を増やしたり散布間隔をせばめる。
5. 殺ダニ剤は、抵抗性出現を回避・遅延するために、同一薬剤及び交差抵抗性の剤は年1回だけの使用とする。

・使用にあたっては、登録内容を再確認すること（表中の登録内容は令和6年11月30日現在）。

薬剤名	IRACコード	希釈倍数	種類に対する効果			ステージに対する効果			ボルドー液との混用	注意事項該当番号
			リンゴハダニ	ナミハダニ	サビダニ	卵	幼若虫	成虫		
コテツフロアブル	13	2,000	×	○	○	○	○	○	×	16, 18
コロマイト水和剤	6	2,000	○	○	○	○	○	○	×	16
カネマイトフロアブル	20	1,000	○	○	○	○	○	○	×	4, 7, 13, 17
マイトコーネフロアブル	20	1,000	○注)	○		△	○	○	×	4, 6, 7, 14, 17
サンマイト水和剤	21	1,500	○	○注)	○	○	○	△	△	3, 6, 9, 16
ダニトロンフロアブル	21	1,000	○	○注)	○	△	○	○	△	3, 6, 16
ピラニカ水和剤	21	1,500	○	○注)		○	○	○	△	3, 6
バロックフロアブル	10	2,000	○	○注)		○	○	×	×	6, 7, 16
スターマイトフロアブル	25	2,000	○	○注)		○	○	○	×	5, 6, 7, 10
ダニコングフロアブル	25	2,000	○	○		○	○	○	×	5
ダニサラバフロアブル	25	1,000	○	○注)		○	○	○	×	5, 6, 7, 8
ダニゲッターフロアブル	23	2,000	○	○	○	○	○	△	×	7, 8, 11, 15

凡例 (効果) ○：効果ある △：効果やや劣る ×：効果ない 注)：県内で効果の低い事例がある。  
ボルドー液混用 ×：有効成分が分解するか、又は散布液の物理性が著しく低下する。△：効力が低下する。

## 【注意事項】

## 散布時期・抵抗性などに対する注意

1. 薬剤の効力低下には地域間で差があるので注意する。
2. 年度の最初に使用する殺ダニ剤は、前年の最後に使用した殺ダニ剤と異なる IRAC コードの殺ダニ剤を使用する。
3. サンマイルト、ダニトロン、ピラニカは交差抵抗性の関係にあるので、これらいずれかを年1回の使用とする。
4. カネマイルトとマイルトコーネは IRAC コードが同一の薬剤であるため、どちらか年1回の使用とする。
5. スターマイルト、ダニコング、ダニサラバは同一の作用性を持つ殺ダニ剤である。現状では、これらの薬剤間における薬剤抵抗性の交差が危惧されるため、原則として、これらの剤のいずれかを年1回の使用とする。やむをえず、ダニコングと、スターマイルト又はダニサラバのいずれかを同一年に使用する場合には、間に異なる IRAC コードの殺ダニ剤を使用する。
6. サンマイルト、スターマイルト、ダニサラバ、ダニトロン、ピラニカ、バロックはナミハダニに、マイルトコーネはリンゴハダニに一部地域で効力低下の疑いがある。
7. カネマイルト、スターマイルト、ダニゲッター、ダニサラバ、バロック、マイルトコーネは、I C ボルドーまたはボルドー液との近接散布で効果が劣る。カネマイルト、スターマイルト、ダニゲッター、ダニサラバ、マイルトコーネはボルドー液散布前後14日以上あけ、バロックは同じく散布前14日以上あけ散布後は使用しない。
8. ダニサラバ及びダニゲッターは、成虫に対してやや遅効的な効果を示す。
9. サンマイルトは、ナミハダニが多い場合は1,000倍で使用するのが望ましい。

## なしの薬害に対する注意

10. スターマイルトは、有袋栽培の西洋なしで薬斑が目立つことがあるので、袋かけ後に使用する。
11. ダニゲッターは、展葉中の葉に薬害を生じることがあるので、新梢停止期（7月中旬）以降に使用し、有機リン剤との同時散布、及び前後10日以内の近接散布はしない。
12. りんご、ももで使用するオマイルトは、なしに薬害を生じる。
13. カネマイルトは、交配から交配30日後の間に散布すると葉に薬害を生じる。
14. マイルトコーネは、日本ナシの主伸長中の散布時未展開葉に薬害を生じるので梅雨明け後に使用する。

## 他作物の薬害に対する注意

15. ダニゲッターは、以下の薬害のおそれがあるので、周辺作物へ飛散しないよう十分注意する。
  - (1) おうとうにも適用登録があるが、新梢伸長期の葉に薬害を生じるおそれがある。
  - (2) 開花期の水稻にかかった場合、不稔などを生じるおそれがある。
  - (3) ぶどう、キャベツ、はくさい、こまつな、ねぎ、ばらに対して薬害を生じるおそれがある。

## 蚕・魚に対する注意

16. サンマイルト、ダニトロンは蚕毒と魚毒に、コテツ、コロマイルト、バロックは蚕毒に注意する。

## その他の注意事項

17. カネマイルト、マイルトコーネはアリエッティCと混用すると凝集する。
18. コテツは、I C ボルドーまたはボルドー液と混用すると凝集する。